

加盟校・加盟員の皆さまへ

2021年7月14日

関東学生ゴルフ連盟

感染対策委員会リーダー 金井 毅

ガイドライン執筆責任者 八尾厚史

平素より本連盟の運営にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

7月12日より、東京都に緊急事態宣言が再度発令されました。変異株（特にデルタ株）による若年層への感染拡大も顕著となってきております。

また、加盟校の半数以上は、いまだに「部活自粛」や「合宿禁止」という制限が顕在しており、円滑な部活動が再開できないとお聞きしております。このような状況下では、日頃の感染対策に加え、ワクチン接種の迅速推進が待たれるところかと思えます。

感染対策委員会では、今後皆さんが接種されるであろう、ワクチンに対する知識詳細とその効果性、懸念される課題点、そして実際に2回目接種が終わった段階での、本連盟への「接種済み報告フォーマットについて」などを下記に挙げさせて頂きました。

（いくつかの加盟校では既に職域接種によるワクチン接種が進んでいるとお聞きしています）
より一層の正しい認識と感染対策への対応に役立てて頂ければ幸いと存じます。

本連盟の「ワクチン接種者への対応」に関する説明

1. ワクチンの効果とは

ワクチンとは、「異物[抗原や抗原のもと(mRNA など)など]を体に大量に（しかるべき量）を与えることにより、その異物(抗原)に対する異物(抗原)除去を速やかに行わせる免疫反応系を形成させるもの」と言えます。そして、その抗原特異的な免疫反応系形成には数日かかると言われ、ワクチン接種を複数回の繰り返すことでその特異的免疫反応系は強化され、ウイルス感染においては異物であるウイルス除去がより瞬時に、且つより大量に生じるとされています。ただし、その記憶はその抗原にさらされない期間が長くなれば、時間とともに減弱する＝機能しなくなるとされています。

ここで、活性化される免疫系には大きく細胞性免疫と液性免疫とあり、細胞性免疫は感染巣で局所的にウイルスや感染細胞を免疫細胞(マクロファージと呼ばれる白血

球などが直接的に除去します。一方、液性免疫は B 細胞と呼ばれるリンパ球からの (中和)抗体産生により、その抗体が全身に運ばれウイルスにくっつくことにより全身的にも直接的にウイルス感染防止が発揮されウイルス除去に寄与するとともに、直接的・2 次的に感染した細胞の除去に関与するのです。いずれも免疫記憶が働くので、再度、抗原にさらされる時にはさらに強力に機能するとされています。ワクチンでは、ある特定のウイルスなどの異物(抗原)に対して、この両者の免疫記憶がセットされると考えられています。COVID-19 における人類初の mRNA ワクチンの場合、感染に必要なウイルスの表面にあるスパイク蛋白のみへの抗体を集中的に作らせるため、感染予防効果・免疫記憶いずれも既感染者より強力になると考えられ、実際そういったデータが出始めています。一度罹った人もワクチン接種を勧めるのはこの為です。

まとめると、ワクチンにより特定のウイルス(抗原)などに対して、こういった免疫反応が「即座に」かつ「強力に」起こるよう準備されるというのが、ワクチンの効果ということなのです。

そして、こういった除去作業過程の中で、サイトカインと呼ばれるような様々な物質が免疫細胞から放出されるので、その量に基づいて実際に炎症が起こっている部分の、そしてその感染巣での放出量が多い場合には全身を駆け巡るので全身的な炎症の程度（発熱、倦怠、筋肉痛など）が決まると考えて下さい。ワクチンを打っていて免疫がセットされていれば、ウイルスは瞬時に、つまり局所の感染のみで除去され、全身に炎症症状が起こらないうちに（知らぬ間に）治っているということです。

では、**ウイルス量が著明に多かったらどうなるのでしょうか？** 例えば、感染者と 2 時間真正面かつ至近距離でマスク無しで会話をしていたとしたらどうでしょう？呼吸のたびにウイルスを肺に吸い込みます。何回呼吸しますか？1 回の呼吸でどれだけウイルスを吸い込みますか？果たして、瞬時にウイルス除去が完全になされるかどうか？ウイルスを保持したまま、ある一定の期間過ごす可能性がある訳です。

つまり、ワクチン接種者でさえウイルス保持者になりうるのです。実際の事例として、大した症状もなく・もしくは軽い風邪症状があるも、ワクチン2回接種後のため普通に勤務していたところ、PCR陽性者と濃厚接触したという疑いのもとPCRを行ったら陽性と判定された方々がいます。こういった事例をもとに先の説明を再読すると、初めにどれくらいのウイルス量が体内に入るか、自身の免疫セットがどれくらい強力であるかの兼ね合いにより、ウイルス除去までの時間が決まるということが伺えます。ワクチン打っているから、免疫ができているから感染しない・感染しているはずは無いとは思ってはいけないということです。ワクチンで得られることは、「発症予防・軽症化が期待できる」という程度であることを今一度覚えておく必要があることと、「多分、軽くウイルスにさらされたくらいなら、瞬時に局所免疫で処理されるであろう」という安心感くらいなのです。

2. 競技会におけるワクチン接種者への扱い

以上を鑑みて、競技会でのワクチン接種者はPCR陰性者同等の安全性を有するであろうという概念から、PCRなど事前検査を省くことが「できる」としました。すなわち感染ガイドライン第2版に書かれてある扱いのまま今後も進めるという事です。ここで、ワクチン効果の経時的有効性についてですが、未だ科学的に正確なデータは確立していません。日本人のデータでは、2回目接種後急激に抗体価が上昇するとされ、10日で最大になると言われています。この点から、有効性確立はワクチン接種完了後1週間で有効性は充分と学連は判断しました。すなわちワクチン2回目接種終了1週間後から有効性ありと暫定的に規定致します。例えば8月14日の試合にワクチン接種者として出場する場合には、8月7日までにワクチン接種を完了して下さい。

1つ副反応についての考え方を説明します。抗体価が10日後に、しかも「急速に」最大となる事象は、そこまでは種々の免疫反応が急速に進むことにより、それ以

外の体の機能は消耗サイドに傾く恐れがあり、種々のホルモンバランスも狂うため、体調不良が誘起される可能性がすべての方に有り得ます。日常生活では感じない程度であっても、アスリートとしてのパフォーマンスを十分に発揮する為には最低 14 日、できれば 1 ヶ月くらいの余裕を見ての接種がセーフティーであると考えます。

そして、競技会前の 14 日間の水際対策を含め、ワクチン未接種者と同等のアクション（行動）を今一度強く要請するものであり、それが守れているからこそ重大なウイルス接触は無いと考え、PCR 検査などの事前検査免除可能としていることをご理解下さい。従いまして体調チェックシート提出の扱いやこの間の行動には未接種者と同様の注意を払って対処する必要があります。この辺の理由は先に述べたワクチンの効果の部分を読んで頂ければご理解頂けるものと考えています。ワクチン効果を過信・誤解して、感染の危険性が高い行為を安全と勘違いしないことが望まれる訳です。したがって現段階の感染拡大状況下では、今まで同様 3 密は絶対に避けるべきなのです。

3、【ワクチン 2 回接種済み報告フォーマット】について

本連盟では、**加盟員の皆さんがワクチン 2 回目の接種が終わった段階で、お一人お一人から本連盟事務局に、その旨の報告を、お願いしたいと存じます。（大学一括でまとめて頂いての報告も可）**本来は個人情報ゆえ報告義務は発生しませんが、競技前検査実施の際（合宿など宿泊が伴う際の事前検査含）「検査免除対象者」を把握する為この報告が必要となります。 何卒ご理解ご協力の程、宜しく申し上げます。

*その報告の際に記入して頂く、【ワクチン 2 回接種済み報告フォーマット】の書式内容については、別紙添付の「フォーマットの書き方」をご参照下さい。

基本は、2回目接種が終わった際に、接種券に貼付される「接種済みシール」が貼られたものをスクリーンショットや写真におさめて頂き、それを本連盟のフォーマットに添付するというやり方です。また、接種券を使わずにワクチン接種された方は、「2回目接種し終わったことが証明されるもの」を前述のように写真等におさめて頂き、それを添付して頂ければ結構です。(詳細お問い合わせは、事務局まで)

*何らかの事情でワクチン接種を行なわない方々に関して、本連盟はそれに対する差別をすることは致しません。

結びとして・・・関東学生ゴルフ連盟は、感染(拡大)0ゼロの理念を第1義的として競技会を取り行っております。他の部分、例えば経済活動などへの配慮はそこにはほぼほぼありません。その部分もご理解頂いたうえで、正しい知識に基づく、参加者・関係者全員の正しいパフォーマンスが重要になります。引き続き、「ウイルスを浴びない・浴びせない」「ウイルスを手などで顔(ウイルスの入口)に運ばない」の2大原則を常に頭においての生活を心がけてください。

ワクチンは、感染自体を予防・軽減する方向に作用します。しかし、特に「現状の感染者数状況」と「国内のワクチン接種状況下」では、感染拡大へ寄与する確率ゼロという訳にはいかないのです。結局、現状でワクチン効果として言えることは、失敗時(感染時)の個人補償(重症化を防ぐ)にしかないということなのです。もちろん、不幸にして免疫がついていない場合は、重症化も起こる訳ではあります。

以上、ワクチン接種者の扱いについて説明致しました。1年前に感染ガイドラインをお出ししましたが、**COVID-19 に関しての正しい理解なくして正しい感染対策は有りません**。この原理原則を今一度思い出して、感染対策にご協力頂けますよう、何卒、宜しく願い申し上げます。